

村のがまだしモン

No. 1

やまむろ
山室 大地さん

南阿蘇村一関地区
25歳 独身です



笑顔と赤シャツの似合う大地くん

東京農大短大学部を卒業。平成24年に就農。親とは、経営を分離、独立して営農している。栽培品目は、ミニトマトが主体、さらに冬場のネギで収入を安定させている。今後は地域の特性を活かし、水田カラーの栽培を取り入れ、経営の安定化を図り、年間雇用体制を確立したい。今後、30歳までに農業法人を立ち上げたい。

趣味は、飲み会。仲間と将来の夢などを語り合うこと。10年後の白川を考えると後継者は10人程度。少なさに不安を感じるが、一緒に勉強会や先進地視察研修などやって進歩したい。そして6次産業化を基本に、三重県にある伊賀の里モクモクファームのような、スケールの大きな、手作りの体験型ファームを、地元の仲間と立ち上げ、徐々に大きく成長させ地域に貢献できるようにすることを、大きな夢としている。

今回は新規就農で頑張っている方を紹介します

むらかみ ゆきひこ
村上 友紀彦さん

南阿蘇村河陽地区
22歳 独身です



素敵なお嫁さん募集中

熊本県立農業大学校野菜学科を卒業。平成25年より後継者として就農。農業に興味を持ったのは小学生のとき。台風によって倒れた稲を祖父と一緒に刈ったときの達成感が忘れられなかった。その後も畑によく一緒に行き、農作業をする両親と祖父の姿を見ているうちに、「私も農業をやりたい」と思うようになった。目標はトマトによる所得を300万円まで伸ばすことである。現状、資材の節約で収益を多くする、栽培管理をきちんと行い収穫量を増やすだけ増やす、などしか思いつかないが、コツコツ頑張っていこうと思う。そして、将来的には、栽培面積を拡大させていきたい。トマトのほかにはちごや米を栽培している。

編集後記

「愛の反対は憎しみではなく、無関心です」マザー・テレサの言葉です。南阿蘇村も合併から10年を迎えようとしています。しかし、未だに合併しなければ良かったとの声が聞かれるのは残念でなりません。課題は山積していますが、それ以上に魅力と可能性が溢れる村です。決して無関心にならず、村民が心をひとつに寄せ合いながら、よりよい豊かな南阿蘇村を築いていきたい。この議会広報が、村民と議会を結ぶ架け橋になれるよう、紙面の充実に励んで参ります。

議会広報特別委員会

委員 太田 吉浩

議会広報特別委員会

委員長 脇坂 春喜
副委員長 桐原 純男
委員 市原 秀志
後藤 征昭
丸野健一郎
太田 吉浩